様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：８２６１９
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０５１４９

研究課題名（和文）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究

研究課題名（英文）A developmental study on China's survey pictures in the end Qing dynasty

研究代表者
関　紀子（Seki, Noriko）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・アソシエイトフェロー

研究者番号：７０５１０２２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,400,000円

研究成果の概要（和文）：東京国立博物館が収蔵する写真資料のうち、清朝末期に行われた文化財調査で撮影された写真資料に焦点をあて、文献資料の調査及び実地調査によって、現状との比較、写真が撮影された行程、未詳な被写体、被写体が選択された背景を明らかにし、その成果を、博物館のウェブ上で公開中の「東京国立博物館所蔵古写真WEBデータベース」に反映させるとともに、特集陳列によって写真資料を一般に公開した。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the photographs taken by the cultural investigation conducted in the late Qing Dynasty from among the photos kept by the Tokyo National Museum, by comparing the current situation with the survey of literature materials and field survey, the process of photographs Reveal background selected subject. The results were reflected in "Ancient photograph WEB database in the Tokyo National Museum", and furthermore the pictures were exhibited at the museum and opened to the public.

研究分野：美術史

キーワード：古写真　岡倉天心　早崎コウ吉　塚本靖　関野貞　古写真データベース

１．研究開始当初の背景

明治 5 年（1872）の開館当初から、東京国立博物館では中国調査写真をはじめ、国内外の多分野にわたる写真資料を収集してきた。これらの写真は、平成 18～21 年度に日本学術振興会補助金（研究成果公開促進費、代表：富田淳）の交付を受け、「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」として一般に公開を開始した。このデータベースよって、伊東忠太ら東京帝国大学の調査に同行した写真師小川一眞による「北京城写真」が、西太后が政権を掌握していた清朝末期における紫禁城の状況を詳細に伝える資料として再評価され、平成 20 年に東京都写真美術館で開催された「紫禁城写真展」に大いに貢献した。さらに平成 22 年度の「清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究」（研究基盤 C　代表者：関紀子、分担者：富田淳）では、小川一眞、早崎梗吉、関野貞によって撮影された写真資料に焦点をあて、関連資料の照合から調査の行程を明らかにし、主要な調査地を実地調査して、被写体や撮影場所・日時の特定、現状との比較を行った。その成果は平成 22 年度に特集陳列「清朝末期の光景―小川一眞・早崎梗吉・関野貞が撮影した中国写真―」の開催と図録の刊行によって公表し、平成 23 年には写真を主とする特別展「孫文と梅屋庄吉－１００年前の中国と日本」の展示に貢献することができた。

これまでの研究で、中国各地に点在する調査地を踏査するにはいくつかの規範となる行程があり、それぞれの調査では目的に応じて先達が開拓した行程を選択し、組み合わせ、さらに発展させていたことがわかってきた。その中で、黄河、長江流域に跨り、主要な旧都を踏査する行程路を確立したのが、明治 26 年の岡倉・早崎の調査であった。しかし、5 か月もの長きに亘る調査で踏査された地域はあまりにも広く、また従来の研究は紙焼き写真に限られていたため、東京国立博物館ではこの調査で撮影されたガラス乾板を収蔵しているが、撮影地や被写体を特定できない写真もあり、中国調査の劈頭を飾り、後の調査の規範となった調査であるにもかかわらず、未だ充分な研究が行われているとはいえなかった。

２．研究の目的

本研究は、清朝末期に日本人によって行われた中国踏査の実態を、現存する写真資料によって解明し、その成果を改めて世に問おうとするものである。周知のように、清朝末期に撮影された中国各地の写真は、その一部が公刊されたものの、なお相当数の写真が未発表のまま保管されている。それらの写真は一世紀を経た現在、当初の目的とは異なる視点からも貴重な情報を提供してくれる。申請者の従来の研究を踏まえ、本研究では東京国立博物館及び諸機関が所蔵する岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖の写真資料に焦点をあて、文献資料の調査および実地調査を通し、中国踏査の実態を明らかにする。その成果は、博物館のウェブ上で公開中の「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」に反映させるとともに、特集陳列によって写真資料を一般に公開することを目的とする。

３．研究の方法

本研究では明治 26 年の岡倉天心・早崎梗吉及び明治 42 年の塚本靖の調査について、以下の 3 点に焦点をあてて、調査の目的と調査地の選定及び参考にされた文献史料、調査で撮影された写真の撮影日時、被写体の特定を明らかにする。

（1）調査の目的と調査地の選定及び参考にされた文献史料について

明治 26 年に岡倉天心と早崎梗吉によって行われた調査の契機は、岡倉の数年に渡る日本の古社寺調査や欧米美術視察の体験から、日本美術の理解には中国美術の理解と実地調査の必要性を感じたことにあった。また、当時の中国では近代的な文化財調査は行われておらず、調査地の選定には古文献史料に負うところが多く、岡倉や塚本靖の日記や記述には『幾輔通志』や『大清一統志』、『山西志輯要』などの地理志、地方志などの文献資料が見られる。本研究では、調査の目的と調査対象の選択、また参考にされた文献史料を明らかにする。

（2）各調査で撮影された写真資料の全様

岡倉・早崎の調査で撮影された写真資料は、東京国立博物館のほかに茨城県天心記念五浦美術館が所蔵し、東京国立博物館が収蔵する塚本靖の写真資料は、当調査で撮影された写真の一部に過ぎず、その多くは東京大学が収蔵するものである。本研究では各機関が収蔵する写真資料についても調査を行ない、写真資料の全様を明らかにする。

（3）撮影日と被写体の特定

当時の撮影ではガラス乾板が使用され、機材の重量等を考えても撮影できる数には限りがあった。被写体は厳選されたものであったと想像される。しかし、現状では被写体を特定できないものがある。そのため、実地調査や撮影者の日記、関係資料から調査の行程を追い、撮影日時と撮影場所を特定し、被写体の特定と被写体が選択された意義を明らかにする。

４．研究成果

（1）平成 27 年度

岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖の中国調査のうち、北京から趙州及び北京から太原までの道程を 3 回に分けて実地調査し、写真が撮影された場所を特定した。平成 28 年度の主な調査地は以下の通りである。

①大同から北京

大同：平城故城城壁、後魏永固陵遺跡、天鎮県：慈雲寺、懐安県：昭化寺、張家口：大境

門長城、張家口堡、北京：居庸関、八達嶺、明十三陵
②大同から太原・文水・交城・平遥
太原：崇禅寺、双塔寺（永祚寺）、寿寧寺、恵明寺、華塔寺、晋祠、天龍山石窟、文水県：寿寧寺、交城県：天寧寺、永寧寺、離相寺、平遥県：清虚観、双林寺、鎮国寺、慈相寺、代県：雁門関、朔州市：仏宮寺、渾源県：懸空寺、大同：雲岡石窟、華厳寺、善化寺
③趙州から保定
正定県：隆興寺、天寧寺、広恵寺、臨済寺、開元寺、崇因寺、大唐清河郡王紀功載政之頌碑、南城門、滹沱河、趙州：柏林寺、安済橋、陀羅尼経幢、永通橋、定州：開元寺（料敵塔）、漢中山王墓、行唐県：封崇寺、曲陽県：北嶽廟、修徳塔、文昌塔、保定府：蓮池書院、大慈閣
（2）平成 28 年度
岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖が行った中国調査のうち、平成 27 年度の北京から河北省趙州間の実地調査に引き続き、河北省荊州から河南省洛陽に至るまでの道程を 2 回に分けて実地調査した。調査では写真が撮影された場所を特定し、現状との比較を行った。また、平成 28 年 7 月 26 日～9 月 4 日に東京国立博物館平成館企画展示室で開催した「特集清国踏査游記―関野貞・塚本靖が撮影した史跡写真」において本研究の成果を反映した。平成 28 年度の主な調査地は以下の通りである。
①河南省鄭州から開封・登封
龍亭、鉄塔、相国寺、禹王台、繁塔、蘭儀口、虎牢関、鞏県石窟、宋陵（永昭陵）、宋陵（永熙陵）、昇仙太子碑、会善寺、永泰寺、少林寺、劉碑寺、中岳廟、嵩陽書院、嵩岳寺塔、法王寺、崇福宮、三闕（太室闕、少室闕、啓母闕）、法海寺
②河南省湯陰から河北省荊州
河南省湯陰：岳飛廟、韓公廟、昼錦堂、河南省安陽：天寧寺、鄴城遺跡、南響堂山石窟、河北省邯鄲：黄粱夢、河北省荊州：予讓橋跡
（3）平成 29 年度
明治 26 年（1893）に岡倉天心・早崎梗吉が行った中国調査のうち、①陝西省西安から四川省成都までの行程と、②四川省重慶から上海までの行程のうち湖北省宜昌から武漢までの行程について、明治 9 年に同地を踏査した竹添井井の『桟雲峡雨日記』と比較しながら実地調査し、写真が撮影された場所の特定と現状との比較を行った。また、平成 29 年 9 月 26 日～11 月 19 日に東京国立博物館平成館企画展示室で開催した「特集清朝末期の光景―小川一真の北京城写真―」において本研究の成果を反映した。平成 29 年度の主な調査地は以下の通りである。
①河南省西安から四川省成都
陝西省宝鶏市：大散関、陝西省留壩県：張良廟、陝西省漢中市：褒斜古桟道（石門桟道）、陝西省勉県：武侯祠、武侯墓、馬超墓、勉県万寿塔、四川省広元市：千仏崖、皇沢寺、明月峡古桟道、昭化古城、費禕墓、四川省剣閣県：剣門関、覚苑寺、姜維墓、四川省梓潼県：七曲山大廟、四川省羅江県：白馬関、龐統祠、龐統墓、四川省成都市：杜甫草堂、青羊宮、万理橋
②湖北省宜昌から武漢
湖北省宜昌市：長江船着場、天然塔、湖北省荊州市：長江船着場、荊州古城、湖南省岳陽市：長江船着場、洞庭湖、岳陽楼、慈氏塔、湖北省武漢市：黄鶴楼、帰元禅寺、宝通禅寺

これらの成果を踏まえ、平成 30 年 9 月 4 日～10 月 28 日に東京国立博物館平成館企画展示室において「特集中国写真紀行―日本人が撮った 100 年前の風景―」を開催する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　件）

〔学会発表〕（計　　件）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」
http://dbs.tnm.jp/db/kaken/oldphotos.html

６．研究組織
(1)研究代表者
関　紀子（SEKI　NORIKO）
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・アソシエイトフェロー
研究者番号：７０５１０２２０

(2)研究分担者
富田　淳（TOMITA　JUN）
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸企画部長
研究者番号：２０２２７６２２

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)